

学習内容報告書 4

学校名	宮崎県串間市立市木小学校
授業者	永友智子・矢野万里子・矢野恵美・佐藤尚子

1. 単元計画

1-1. 単元名

海を生かす

1-2. 学年

全学年

1-3. 教科（単元を実施する教科を全てお書きください）

生活科・総合的な学習の時間

1-4. 単元の概要

○海を生かす

①海の資源・・・水産業に関する学習

②生活と海・・・自分たちの日常生活と海との関わり（本年度の海洋教育のまとめも含む）

①については、水産業の理解ということで都井岬の（有）「海心」に協力していただき、漁船の体験乗船や定置網漁体験を実施した。また、食育との関連を図り、海心の方の指導の下に定置網で取れた海の幸を使って5、6年生が料理にも挑戦することができた。調理したものを全校児童で試食することもでき、水産業に関する理解を深めることができた。

②については、生活科や総合的な学習の時間（ふるさと学習）及び社会科、環境教育との関連を図りながら、児童、保護者、地域の方々との生活と海との関わり等についてまとめ、高学年を中心に本年度の海洋教育をリーフレットにまとめ、保護者や地域等に紹介することができた。

1-5. 単元設定の理由・ねらい

○ 自分たちの日常生活と海との関わりについて、身近な水産業に焦点をあて実際に水産業に従事されている方々の工夫や苦勞、今後の願いなどを詳しく学習する。こうした学習を通して、水産業に対する正しい理解を深め、キャリア教育と関連を図りながら、児童一人一人の職業選択の参考とする。

○ 昔から地域の方々にとってなくてはならない存在の海について理解するとともに、本年度の海洋教育の整理をしてリーフレット等にまとめ、多くの方に市木小の活動を紹介する。

1-6. 育みたい資質や能力、態度

○ 水産業について詳しく理解することで、水産業の魅力を感じ取り、将来の職業選択の一つとして水産業も考えることができる態度を育てる。また、食育に関連した活動を通して、水産資源のすばらしさやありがたさを実感し、貴重な水産資源を守りながら有効に活用していこうとする実践意欲を養う。

○ 本年度の海洋教育の学習活動を振り、多くの方々に広く紹介するための表現力を育みたい。

1-7. 単元の展開（全 8時間）

時 数	学習活動・主な内容	教師の指導 / 主な評価 外部連携 / 使用教材等
4	<p>【海の資源】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 都井岬の漁港へ移動する。 ○ 講師の方の説明を聞き、漁船の乗船体験や定置網漁体験を行う。 ○ 体験を通して、疑問に思ったことなどを講師の方に質問する。 ○ 定置網漁体験でとれた魚介類を自分たちで調理する。 ○ 調理した魚介類を試食し、味わうことで、水産資源のありがたさを実感する。 	<p>評) 講師の方の説明をしっかりと聞き、安全に留意しながら乗船体験や定置網漁体験をすることができたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 体験乗船の際は、転落防止の手立てなど、安全面に配慮する。 ○ 体験の感想や疑問を自分なりの言葉で表現させ、個に応じて学習を深めさせるようにする。 ○ 5、6年生に関しては、魚介類の調理体験も行わせ、資産資源をより身近なものとして捉えさせるようにする。 <p>評) 調理された水産資源を試食する際に感謝の気持ちをもつことができたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 試食の際は、調理してくれた5、6年生や水産資源に感謝しながら味わうように助言する。
4	<p>【生活と海】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 昔からの生活や現在の生活での海との関わり方について調べる。 ○ 今後の生活での海との関わり方について考える。 ○ 本年度の海洋教育の学習活動を振り返り、多くの方に紹介するためのリーフレットを作成する。 	<p>評) 地域の方々がこれまでどのように海とかかわってきたのかを理解し、今後の関わり方について自分なりに考えることができたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 海の恩恵だけでなく災害等に対する対応等についてもしっかりと理解させる。 <p>評) 本年度の海洋教育についてしっかりと振り返ることができたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 海洋教育に関する多くの学習活動を通して、児童一人一人がどのようなことを学ぶことができたかをしっかりと振り返らせるようにする。 ○ 5、6年生を中心にして、本年度の活動をまとめたものをリーフレットとして作成させ、地域内外の多くの方に紹介できるようにする。

2. 学習活動の実際

2-1. 単元における位置づけ

単元 8 時間中の 1～4 時間目

2-2. 本時の目標

- 漁船の乗船体験や定置網漁体験を通して、身近な水産業への興味・関心を高めるとともに、水産業に携わる人々の工夫や苦労を理解する。また、水産資源を使った料理を試食することで、水産資源のありがたさを実感し、今後も水産資源を守っていこうとする態度を育てる。

2-3. 本時の展開

主な学習活動 / 反応	教師の指導・支援 / 評価の視点 (方法)
<ul style="list-style-type: none"> ○ 串間市のスクールバスで都井岬近くの漁港へ移動する。 ○ 海心へ着いたらはじめの式を行う。 ○ 1～3年と4～6年の2つのグループに分かれて漁船の乗船体験を行う。 ○ 海心の方に漁業や海のことについて説明していただく ○ 定置網漁体験を行う。 ○ 海心の方の指導を受けながら、とれた魚介類を調理する。(5、6年生) ○ おわりの式を行い、代表児童数名が感想を発表し、全員で感謝の言葉を述べる。 ○ 学校へ移動する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ バスの中では、移動中の風景にも着目するように助言する。(緊急車両を1台準備) ○ 海心の方々への挨拶の後、海心の代表の方に体験活動の際の留意点等について説明していただく。 【学習協力者】 ・(有)「海心」の方々 ○ 実際の海では漁船が激しく揺れることなどを児童に伝え、勝手な行動や危険な行動は絶対に行わないように指導する。(全員ライフジャケット着用) ○ 漁業に関する話を聞き、疑問に思ったことなどは質問させるようにする。 評) 漁船の体験乗船をして、新たな発見や自分なりの気付きを見つけることができたか。 ○ 定置網の仕組みについて講師の方の説明を聞き、実際に定置網漁体験をさせることで、水産業を身近に感じさせる。 ○ 定置網があがってきた際の網にかかっている魚介類を見た時の喜びと感動も味わわせる。 ○ 海心の方の指導を受けながら、5、6年生児童に定置網で取れた魚介類を調理させる。調理についてはシンプルな味付けのもので素材そのものを味わうことができるようにする。 評) 定置網漁体験や試食を通して水産資源に対する感謝の気持ちをもつことができたか。 ○ 代表児童数名に感想を発表させ、全員で感謝の言葉を述べさせる。代表以外の児童については、感想を日記等に記述させる。 ○ スクールバスで学校へ帰校する。

3. 今回の活動の自己評価

- 今回の活動は、有限会社「海心」の協力のもとに実施することができた。当日は、海が風の状態で体験活動を実施するには最高のコンディションであり、初めて漁船に乗船する児童も恐怖感なく楽しむことができた。
- 初めて漁業関係者の方の話聞く児童も多く、漁業関係者の方々の工夫や苦勞及び今後の願いなどを身近にとらえることができた。
- 4年生以上の児童が定置網漁体験で魚介類が大量に取れた時の喜びなどを実感することができた点では、漁業関係の職業に対する興味・関心も高まり、キャリア教育の視点からも有意義であった。
- 新鮮な魚介類を試食する機会もあり、食材そのもののもつうま味を味わうことができるような工夫もされており、普段は魚介類を好まない児童も積極的に食するなどの光景も見られ、食育に関する点でも効果的な活動であった。



4. 今後の課題

- 海の状況によっては、乗船体験だけでなく活動そのものの実施が難しい場合もあり、活動内容や活動の予備日を考慮しておく必要がある。
- 活動場所が校区外であり、移動の時間（往復で約1時間程度）や費用的なもの（8万円程度）を考慮すると、毎年の実施は難しい状況である。今後は、校区内の漁業関係者で協力してくださる方を探したり、隔年での実施を計画したりすることが必要になってくる。
- 今回は、魚介類の食物アレルギーがある児童はいなかったのですが、食育との関連から試食も実施したが、魚介類の食物アレルギーのある児童等がいた場合には、活動内容の変更等も必要である。

5. 本学習内容報告書活用にあたっての留意点

- 本学習は、実際の海上での活動を含んでいるので、児童の安全面に対する十分な手立てが必要となる。また、乗船については恐怖心を抱く児童も予想されるため、本人及び保護者の承諾をとることも必要である。
- 学校の実情により、水産業理解の内容と食育関連の内容を分けて実施することも可能である。